



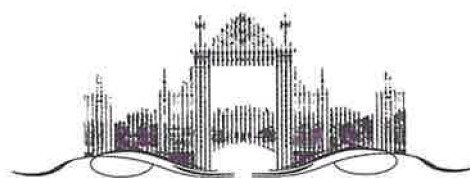
Rotary International

LEAD THE WAY

率先しよう

2006～2007年度

国際ロータリーテーマ：ウィリアム ボイド会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

東京赤坂ロータリークラブ

No.916 / 2006.7.21

例会 / 毎週金曜日12:30

例会場 / 東京全日空ホテル Tel 03-3505-1111

事務局 / 〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8

赤坂2丁目アネックス3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp

http://www.k5.dion.ne.jp/~akasaka

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「これまでも、これからも 皆で築こう赤坂ロータリー」

2006～2007年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ / 荒木昭文会長

●本日の例会 / 2006年7月21日第938回例会

◎本年度 第2回クラブ協議会

「20周年記念行事について」

(例会後 13:10～14:30)

【ロータリー財団の寄付について】

寄付は大きく分けて次の3種類です。

1. 年次寄付
2. 恒久基金寄付
3. 使途指定寄付

《年次寄付》

年次寄付は寄付の基盤であり、財団プログラムの燃料と言えるものです。この寄付は使い道を指定することなくロータリー財団に寄付するもので、寄付して3年後に地区の年次寄付総額の60% (2003-04 寄付年度で2006-07 プログラム年度から50%) については、地区がその使い道を決定することができます。殆どは個人の寄付ですが、地区やクラブが募金行事やチャリティー・コンサートを主催してその純益をロータリー財団に寄付するというケースもあります。また、家族や恩人の死を悼み、メモリアル・コントリビューションをするという場合もあります。

ロータリー財団は、惜しみなく寄付してくれる人々に対して、色々な形で感謝の意を表明しています。ロータリーの創始者に敬意を表して、ポール・ハリス・フェローとして認証しています。これは、自らまたは第3者の名義で米貨1,000ドル以上を寄付した人をポール・ハリス・フェローとして認証します。記念となる証書、メダル、ピンを贈呈します。必ずしも一括1,000ドルを寄付するには及びません。1957年に、12人がポール・ハリス・フェローに指名されました (その12人の中には、死後に認知されたロータリーの創始者ポール・ハリス自身も含まれています)。1984年までに10万人のポール・ハリス・フェローが認証され、わずか5年後には25万人に達しました。2005年2月28日現在、93万人以上がポール・ハリス・フェローに認証されています。これは、財団が多くの人々に礼を述べる事のできる最上の方法の一つです。ポール・ハリス・フェローになることは、単なる金銭的寄付をしたことを意味する事だけでなく、財団のプログラムの歯車を動かす事を意味します。

《財団の友 (年次寄付)》

ポール・ハリス・フェローとして認証されるために一括1,000ドルを寄付するのではなく、無理のない範囲で、1回目に100ドルを寄付し、1,000ドルに達するまでに随時寄付するというのがポール・ハリス準フェロー制度です。このPaul Harris Sustaining Memberの名称が1999年に、Rotary Foundation Sustaining Memberと変わりました。その時従来と異なり、1,000ドルに達した後も寄付し続けると定義されましたので、ロータリー財団準フェローではなく、財団の友と改称しました。

2002年に財団の友が再定義され、「財団の友」会員は年 (裏面へ続く)

— ●先週報告 / 2006年7月14日第937回例会 —

◎卓話 「朝鮮半島の動向」

防衛庁防衛研究所 主任研究官

武貞秀士氏

(紹介者 庄司泰典君)



- 幹事報告:**
- ① ガバナー月信委員長より「ガバナー月信表紙掲載お写真公募に関して」の書面がとどいておりますので、例会会場後ろの掲示板に掲示いたします。どうぞご覧ください。
 - ② 地区2750地区の各クラブからの例会変更と休会のお知らせを掲示いたしましたので、ご覧下さい。
 - ③ 2006-2007年度理事・役員及び委員会構成を配布いたしました。
 - ④ 7月21日 (金) は第2回クラブ協議会を開催いたします。テーマは「20周年記念事業について」です。ご出席のほどお願いいたします。

親睦活動委員会 : (竹本委員長)

- ① 7月26日 (水) 東京タワーの下「とうふ屋うかい」にて暑気払いがございます。30名の予約席に29名の予約をいただいております。
- ② 8月26日セルリアンタワーB2F、能楽堂にて当クラブ会員荒川欣也氏こと市川左團次さんの歌舞伎とトークショーがあります。多くの方のご参加をお待ちしております。

国際奉仕委員会 : (尾上委員長)

ロータリー財団2006～2007年100ドル寄付のお願いです。本年度の東京赤坂ロータリークラブも目標額は、4000ドルです。皆様よろしく願ひいたします。

S.A.A : (岩上リーダー)

各卓に「TABLE MASTER」のプレートを設置致しました。TABLE MASTERの席に座られたメンバーは、ビジター及び新入会員の方々と名刺交換と紹介をよろしくお願い致します。



出席報告: 会員55名 / 出席29名・欠席26名 (出席規定免除者5名) ゲスト2名 ビジター 5名

次プログラム基金へ毎年 100 ドル以上寄付する人の事です。クラブ会員全員が財団の友となりますと、「100%財団の友クラブ」と呼ばれバナーが送られます。

《Every Rotarian, Every Year「毎年あなたも100ドルを」》

2001年と2004年規定審議会の決定で2005年の100周年までに毎年一人当たり100ドルの寄付を達成する事が決議されています。日本の2003-04年度一人当たりの寄付は93ドル71セントですから、これを世界で達成できれば大変喜ばしいことですが、真意は多額の寄付をする人もいて、少ない人もいて、平均100ドルではなく、一人ひとりに何らかの財団寄付をお願いすることです。この100ドル達成の手段が「財団の友」です。ポール・ハリス準フェローですと、1,000ドルになると目標達成期で終わりですが、「財団の友」には終わりはありません。毎年100ドルずつ寄付していただくものです。

《恒久基金寄付》

年次寄付は3年後に全て使われます。ロータリー財団が好不況に関係なく、プログラムを継続できるように、1980-81年度にロータリー財団は世界理解と平和のためのロータリー財団基金の設立を決定しました。この基金への寄付は投資され、その収益だけが財団プログラムの支援に使われます。1994年11月にこの基金はロータリー財団恒久基金と改称されました。年次寄付の認証がポール・ハリス・フェローであるのに対し、恒久基金寄付への認証はベネファクター（後援者）です。ベネファクターとは、その資産計画に財団を含めるか、恒久基金に少なくとも米貨1,000ドルを寄付した人の事です。

《使途指定寄付》

年次寄付は3年後のプログラムに使います。恒久基金寄付は元金を使わず、財団が運用してその利息だけを使います。使途指定寄付はあらかじめ使い道を決めた寄付をするものです。ポリオ・プラスがその代表的例です。ポリオ・プラス寄付は、一度ポリオ・プラス基金に入れ、ニーズがある都度使っていきます。他のものに流用される事はありません。また、マッチング・グラントで例えれば、ブラジルに井戸を掘ったり、木を植えるために寄付をした場合、事務処理のため数週間財団に置かれるだけで、直ちにブラジルに送金されます。



7月14日／8件17,000円／本年度累計102,000円
多額のご寄付をありがとうございました。（敬称略）

荒木／武貞さん、卓話宜しく申し上げます。能登（京都舞鶴RC）／メイクアップお世話になります。清水／先週100%出席でした。5年目に入ります。今日、私どもの仲間が今、フジテレビ「笑っていいとも」に出演中、私はロータリーを優先。鶴間／新入会員の鶴間です。ご指導宜しく申し上げます。橋本さん、最終夜会の写真ありがとうございました。小原／橋本さん、お写真ありがとうございました。西澤（民）／暑いですね。村山さん、ご苦労様です。荒木会長はじめ新役員の方、頑張ってください。山川さんご苦労様です。山川／ニコニコ担当の村山さん、本日は少ししか集まっておりませんとのこと。（披露時に「最初だったので少なかったが、その後集まりました」との訂正が村山さんからありました）村山／代理でニコニコ担当いたしました。皆様、ご協力ありがとうございました。

■二つのニーズに応える、二つの寄付方法

※大きく分けて次の二つの寄付方法があります。年次寄付は、寄付者を「ポール・ハリス・フェロー」と呼んでいますので、よく理解していただいていると思いますが、恒久基金は、寄付金を基金として積み上げ、基金には手をつけず、その運用益を活用します。恒久基金の寄付者を「ベネファクター」と呼びます。

年次寄付

年次寄付は今日のプログラムを支援

3年間の投資による収益をプラスして事務局費、プログラム管理費等に利用

シェア・システムによりWFとDDFとして3年後にプログラムに使用

→ ポール・ハリス・フェロー

恒久基金

恒久基金は明日のプログラムを確保

基金をベースにした運営益をプログラム資金、プログラム運営費等に利用

RIは2005年までの目標：5億ドル

2025年までの目標：10億ドル

→ ベネファクター

※ロータリー財団では、恒久基金を徐々に増やして行き、2025年までに10億ドルの基金にすることを目標にしています。性格の異なる二つの寄付は、どちらもロータリーのプログラムを展開していく上で重要なものと言えます。

★ロバート・パース元RI会長の言葉：

『年次寄付は、毎日庭に水を撒き、花々に水分を供給するようなものです。恒久基金は、いつでも水が撒けるように、十分な水を用意している貯水池のようなものです。』

■大口寄付（メジャードナー）と遺贈友の会

※年次寄付、恒久基金等ロータリー財団に対するすべての寄付を合算して10,000ドル以上を寄付されることを大口寄付と言い、大口寄付をされた方をメジャードナーと呼びます。

※10,000ドル以上の遺産の受取人としてロータリー財団を指名し、そのことをロータリー財団に報告をすると遺贈友の会会員となります。

本年度 地区目標

年次寄付 一人100ドル以上 合計50万ドル以上

ポールハリスフェロー 100人以上

ベネファクター 100人以上

大口寄付者 10000ドル以上5人以上 25000ドル以上2人以上

遺贈友の会会員 10人以上

●次週予告／2006年7月28日第939回例会

◎卓話予定

イニシエーションスピーチ

当クラブ会員 株式会社イルミナティ 仁木洋子氏
（紹介者 鈴木康一君）